

BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース



平野博文文部科学大臣（右）へ、田中慶秋武道議員連盟副会長から決議文が手渡される（3月7日 東京・憲政記念館）

## 平野文科大臣へ決議文を手渡す

平成 24 年武道振興大会

# 中学校武道必修化元年を迎え 更に充実した条件整備を要望



## 平成24年武道振興大会

平成24年武道振興大会（武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館共催）は3月7日、東京・千代田区の憲政記念館で行われ、平野博文<sup>ひろふみ</sup>文部科学大臣をはじめ、国会議員、武道関係者約240名が出席した。

大会では、本年4月から完全実施される中学校武道必修化を成功させるための条件整備、特に充実した武道の授業が展開出来るよう、優れた指導者の確保・養成のための施策を講ずることや、2020年オリンピック東京招致実現のための支援などを要望する決議文が満場一致で採択され、平野文部科学大臣に手渡された。

また大会には、野田佳彦内閣総理大臣から祝辞文が寄せられ、披露された。



決議文を手渡されたあと、祝辞を述べる平野博文文部科学大臣

## 祝 辞

武道振興大会の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

武道は、香り高い気品と優れた技術性を備えた、我が国が誇る伝統文化です。

真摯な鍛錬を通じ、自らの力と技を高めながら、同時に相手を敬する思いを礼に託する武道が、今日、我が国のみならず、広く世界の人々に愛され、親しまれていることを、心よりお慶び申し上げます。

このような武道が持つ、優れた教育力を踏まえ、本年四月からは、中学校教育の場において、武道の必修化を開始いたします。私自身、柔道を通じて多くのことを学んできましたが、我が国の未来を担う子どもたちが、身体能力の向上という側面のみならず、伝統に磨かれた武道の精神性の深みにも触れ、心身ともに健全に育ってくれることを願ってやみません。

結びに、本日ここにご参集の皆様には、平素から、武道振興のため多大のご尽力を賜っていることに感謝申し上げますとともに、何卒、今後とも、武道振興を通じ、青少年をはじめ社会各層の方々の心身の健全な発達にお力添えを戴きますよう、そして世界の人々の日本理解を一層深めて戴きますようご祈念申し上げます。私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

平成二十四年三月七日

内閣総理大臣 野田 佳彦



松永光日本武道協会・日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長

大会は、定刻の正午、三藤芳生みかじよお日本武道館理事・事務局長の司会・進行により、江渡聡徳えとあきのり武道議員連盟理事・事務局長の開会宣言で始まった。最初に主催三団体を代表して、高たか村正彦むらまきひこ武道議員連盟会長が登壇し、挨拶を行った。

「4月から始まる中学校武道必修化では、子供たちは、12時間程度の短

い授業時間の中で、礼に始まり礼に終わる、心・体を鍛える、師を求めると、〝武道の真髄に触れて学ぶ〟ことが必要です。そのためには、指導者が一番大切であり、日本全国には武道の専門家がいますので、ぜひ、学校現場に入っていたいただき、教員と共に積極的に関与して、武道の真髄を子供たちに示していただきたいと思えます。中学校武道必修化に、これから魂たましいを入れていかなければなりません。今後皆様方の一層のご尽力をお願い申し上げます」

次に、松永光ひかる日本武道協議会・日本武道館会長が挨拶を述べた。

「日本武道館は、約50年前に、日本再建のため、特に日本の将来を担う青少年育成のためには、日本の代表的な文化である武道の振興が何よりも肝心であるという考えから、設立いたしました。以来、日本武道館は施設を有効活用して財源を確保し、今日まで武道振興に役立ててまいりました。今後も、武道の振興・普及・発展のために尽くしてまいります」

続いて、田中慶秋けいしゅう武道議員連盟副会長が大会決議文案を朗読すると、満場一致、万雷の拍手で採択された。

## 決議

我が国は、明治維新以来、驚異的な勢いで近代史に確かな足跡を残し、世界有数の経済大国となった。その一方で、青少年層を中心に倫理道徳の退廃が著しく、自他の尊厳や義務感の欠如等、規範意識の低下が、国家、社会の将来を暗いものにしつつある。また、昨年は東日本大震災が発生し、諸局面に混乱の度合いを増している。

そんな中、国は国家再生へ向け、「公共の精神、生命、伝統や文化の尊重」を盛りこんだ教育基本法の改正を実現した。誠に、ご同慶の至りである。翻って、武道は、国民精神の根源、即ち武士道精神の真髄を貴重とする、体・徳・知を一体としてはぐむ我が国固有の伝統文化で、文武両道、質実剛健を旗印とする国家、社会の平和と繁栄に寄与する人間形成の道である。

よって、ここに、青少年の健全育成を主眼とする、平成二十四年度実施の中学校武道必修化を成功させるとともに、武道のさらなる振興発展が図られるよう、左記事項の早期実現を強く要望する。

### 記

一 平成二十四年四月に完全実施される中学校武道必修化が成功するよう、施設、用具、指導者の条件整備に万全を期すること。

二 特に、指導者については、教員養成大学で武道を必修化し、中学校教員採用試験に武道を試験科目として位置付けるとともに、武道学科卒業の新卒教員を積極採用するよう各都道府県教育委員会に働きかけを行うこと。さらに、充実した授業が実施できるよう優れた外部指導者を各中学校に配置し、準備に万全を期すること。また、全国一万余校の中学校体育教員を対象とした武道指導者講習会を、関係武道団体の協力を得て、徹底実施すること。必修化に当たっては、



田中慶秋武道議員連盟副会長が大会決議文案を読み上げる

武道ならではの教育効果が上がるよう、「礼」を重視した指導を徹底すること。これに関わる武道九種目の指導者研修会や指導法研究、指導書作成等、関係団体の諸活動に必要な支援、助成を行うこと。

三 将来の小学校における武道授業の実施へ向け、実践校における実践研究をより積極的に展開し、発達段階に応じた武道九種目の指導法研究を行い、準備を推進すること。

四 全国的な武道の普及振興をより確かなものとするため、全国都道府県立武道館協議会の活動に対する支援と、各都道府県武道協議会の設置促進に必要な支援を行うこと。

五 二〇二〇年オリンピック東京招致を実現させて、武道種目を新しく正式競技化するとともに、武道の国際的普及振興を確かなものとするため、日本武道代表团や武道指導者の海外派遣事業をより一層推進し、必要な支援、助成を行うこと。

六 武道の源流である一千数百年の歴史を有する古武道の保存・継承を図るため、文化財指定について所要の措置を講ずるとともに、必要な支援、助成を行うこと。

七 武道場の整備については、国の補助制度を拡充するとともに、日本武道館の諸施設を更に充実し、将来予定される武道博物館・同図書館の創設も視野に入れた建替計画を推進し、必要な支援、助成を図ること。

以上、武道議員連盟・日本武道協議会・日本武道館三者によって共催する武道振興大会の名において決議する。

平成二十四年三月七日



白井日出男日本武道館理事長

●平野博文文部科学大臣・祝辞

「本日ここに、武道振興大会が、多数の皆様方のご参加により、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

武道は、体を鍛え、技を磨くとともに、礼節を重んじ、相手を尊重する態度を養うことが出来る、我が国が誇る伝統文化でもあります。今日、



次いで、野田佳彦内閣総理大臣から寄せられた祝辞文を披露し、各武道9団体の代表者挨拶へと移った。代表者挨拶の途中、国会の関係で到着が遅れていた平野博文文部科学大臣が来場されたため、壇上にて、先ほど採択された決議文が、田中武

武道が子供から大人まで多くの人々に親しまれて、伝播したことは皆様方のご努力の賜であり、深く敬意を表します。

いよいよ平成24年度から、新学習指導要領の全面实施により、中学校の保健体育で武道が必修となります。全国の中学校でどこでも均一に実施し、その教育効果を高めていくため、計画的に、施設・指導者・用具について、条件を整備してまいりました。なお今後は、外部指導者の協力などにより、武道がより安全かつ円滑に実施出来るよう、万全を期してまいりたいと考えております。今後、全ての子供が武道を経験していくことになり

ます。武道から人間教育としての力を発揮し、新しい時代

議連副会長から平野大臣に手渡され、大臣から祝辞が述べられた。その後、各武道代表者の挨拶を再開したあと、乾杯となった。白井日出男日本武道館理事長が壇上に立ち、「本年は、武道元年であります。4月から始まります中学校武道正課

を切り拓いていく心豊かで逞しい日本人の育成に繋がるよう、期待をいたしております。

文部科学省としましても、本日の皆様方の決議を踏まえ、今後とも、武道の振興に一層努めていく所存でございますので、皆様方の更なるご支援・ご協力を心からお願ひ申し上げます。終わりに、大会運営にご尽力いただいております関係者の皆様方に深く敬意を表しますとともに、ご出席の皆様のみますますのご発展を心からご祈念いたしまして祝辞といたします。

私も学生時代に武道をやっております。本日、皆様方に素晴らしいご決議をいただきました。しっかりと、この決議を踏まえて、整備・推進してまいりたいと思ひます。今後ともよろしくお願ひ申し上げます」

が見事に成功いたしますように、皆様方のお力添えをお願いいたします」と、力強く乾杯の発声を行った。懇親では、間近に迫った武道必修化の話題で、いつにも増して盛り上がりを見せ、盛会裡に閉会となった。



▶白井日出男日本武道館理事長の発声で乾杯し、本年4月から始まる中学校武道必修化の成功を誓った

◎田中慶秋武道議員連盟副会長



大会決議文案を朗読された田中慶秋武道議員連盟副会長に感想を伺った。

「決議文を読まさせていただきました、今年から中学校武道の必修化ということで、文面にも指導者の養成や、施設などの整備・充実について、いろいろと書かれておりますが、やはり、日本の伝統文化ということ、そして、『礼』を重視するということ、それが書かれていること、そのことに一番感動しております」

田中副会長は柔道五段の腕前。柔道の思い出を伺った。

「柔道は、小学校4年生から大学を卒業するまで、ずっとやっています。私の叔父が町道場で柔道をやっていたものですから、それに憧れて

柔道を始めました。東海大学の柔道部を創ったのも私です。現在、柔道部の会長もずっと続けております」

中学校武道必修化で柔道を選択する学校が約65%を占めること、また、柔道の危険性を問う最近のマスコミ報道について伺った。

「柔道は、嘉納治五郎先生の教えも素晴らしいと思いますし、三船久蔵先生のように本当に小柄な人が『空気投げ』ではないですけど、『柔能く剛を制す』ということで技を出すことが出来ますので、そのことに私は小さいときから憧れておりましたが、柔道を選択する要因の一つかも知れません。

昔は、まず受身を徹底的に教わりました。私は何でも基礎をしっかりとやっておけば、全然危なくないと思います。技がどうのこうのと言う前に、一所懸命、受身をやらせることが大切でしょうね。

そして、やはり、子供たちを信頼して、日本の伝統的文化である武道をしつかりと子供たちに普及させる、教えるということが必要であろうと思います。私は柔道をやっている、今の自分があると思っています」

◎久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長



年局長に大会の感想や、中学校武道必修化について伺った。

「4月からの中学校武道必修化に向けて、各武道団体、武道議員連盟の先生方のそれぞれの大変強い結束が見られ、また、大変な盛り上がりで、素晴らしい大会であると思いましたが、武道必修化の流れは、以前からあったのですが、やはり、教育基本法の改正（平成18年）を契機として、ますます現実味が増して、盛り上がってまいりましたので、改正に携わった一人としましても大変良かったと意を強くしました」

武道授業の充実のための施策である、施設・指導者・用具の整備のうち、特に指導者の養成について伺った。

「今まで3年間の移行期間があり、継続して準備してまいりましたが、これで終わりではなく、これからが

スタートです。今後も、国も都道府

県も市町村も続けてまいります。学校任せにせず、指導者・先生任せに

せず、皆で一緒になって育てていく必要があると思います。また、これ

まで以上に、いろいろな指導手引書を配布したり、研修会の開催、事例

の紹介等、情報を提供するなど、様々なことを展開してまいりたいと思います。また、今でも全日本柔道連盟

さんや各団体の方々がいろいろとご努力されていますが、更に都道府県

等と連携を図りながら指導者を養成していくことを進めてまいりたいと思

います」

最後に、学校現場の先生や子供たちへのメッセージを伺った。

「武道は、礼を知り、礼に始まり、礼に終わります。そして、相手のこ

とを思いやります。単なる技術の向上だけではなく、先ほど高村武議連

会長がおっしゃっていたように、深い意味合いを持つているものですか

ら、そういうものを味わって身に付けていただき、日本がより素晴らしい

国になることを大いに期待しております。各学校でますます頑張ってください

□各武道代表者に聞く——中学校武道必修化を控え、学校現場・授業実践者へ望むこと

◎全日本柔道連盟

小野沢弘史専務理事



「武道には、先達せんたが苦勞して編み出したものが技法として残されています。その一端をぜひ子供たちに触れてほしいと思います。ただ、武道ですから危険性もあります。特に柔道の場合は力が相手に直接加わりますから、授業では絶対に悪ふざけをさせずに、受身をゆつくりと低いところから始めて、次第に技量を高めていくなど、段階的指導をしなければなりません。毎週50分行えば、かなりの危険性に対応出来るようになります。そして、いろいろな意味で強い子もいれば、弱い子もいます。運動が不得手な子もいますから、個々の生徒の様子を見ながら、レベルを考えながら、絶対に無理のないように授業をしていただき、授業が終わったときに、相手への思いやり、相手がいるから柔道が出来るという感謝の念を持って、きちっと礼法れいぽうという形で表わせるようにしていただきたい」

◎日本相撲連盟

南 和文副会長



「ケガを防ぐことを第一に考えています。連盟で作成した授業のカリキュラム

と共成長していくということが一番大事であると思います。また、学校の先生に限らず、専門家の方にも講習会やセミナーに参加していただいて、更に指導者としての資質を高めていただきたいと思います」

◎全日本弓道連盟  
鹿野伸郎理事



「連盟として、弓道を選択する中学校には、弓道具（弓、矢、配布して支援しています。また、弓道の出来る先生がいなければ、地元

は、体育館の中などで行うように設定されていて、頭を打つなどの危険性はないようになっていますが、それでも武道ですから、そういう点は考えなければなりません。現在、連盟ではケガについてのアンケート調査を、相撲を行っている全国の小中高と道場に対して実施し、5月中に統計をまとめる予定です。既存の土俵のある道場と授業とは違うので、事故の予防には直ぐに役に立たないかも知れませんが、武道必修化では、400数校に選択していただいたので、これに因應するためにも連盟として、万全の体制で臨みたいと思います。授業で相撲を体験して、その楽しさを覚えてもらい、きちんとした土俵で相撲を続けてくれる子供が一人でも多く増えてくれることを楽しみにしています」

◎全日本剣道連盟  
武安義光会長



「子供たちには、剣道を通して、体と心の両方を修練してほしいと思います。指導者には、安全を第一に考えていただきたいと思ひます。剣道は、大衆化して、昔のように足がらみで倒したり、突き飛ばしたりと、激しい稽古をしなくなつたこともありすが、教育として常識的に指導すれば、危険は少なく、男女差もあまり関係ありません。また、指導者養成については、他武道も同じだと思ひますが、全ての学校に専門家を置くことは出来ませんから、体育の先生に勉強していた

は、飛び道具ですから事故の起きないように注意しなければなりません。体育館でも出来るように指導書を作成しましたので、それに基ついて授業展開をしていただければ、まず事故は起きないだろうと考えています。短時間の授業で弓道が上手になるのは難しいことです。それよりも、対外的な礼儀や、立ち居振る舞いであるとか、そういうものを、指導していただけたらと思ひます」

「子供たちには、剣道を通して、体と心の両方を修練してほしいと思います。指導者には、安全を第一に考えていただきたいと思ひます。剣道は、大衆化して、昔のように足がらみで倒したり、突き飛ばしたりと、激しい稽古をしなくなつたこともありすが、教育として常識的に指導すれば、危険は少なく、男女差もあまり関係ありません。また、指導者養成については、他武道も同じだと思ひますが、全ての学校に専門家を置くことは出来ませんから、体育の先生に勉強していた

「子供たちには、剣道を通して、体と心の両方を修練してほしいと思います。指導者には、安全を第一に考えていただきたいと思ひます。剣道は、大衆化して、昔のように足がらみで倒したり、突き飛ばしたりと、激しい稽古をしなくなつたこともありすが、教育として常識的に指導すれば、危険は少なく、男女差もあまり関係ありません。また、指導者養成については、他武道も同じだと思ひますが、全ての学校に専門家を置くことは出来ませんから、体育の先生に勉強していた

「子供たちには、剣道を通して、体と心の両方を修練してほしいと思います。指導者には、安全を第一に考えていただきたいと思ひます。剣道は、大衆化して、昔のように足がらみで倒したり、突き飛ばしたりと、激しい稽古をしなくなつたこともありすが、教育として常識的に指導すれば、危険は少なく、男女差もあまり関係ありません。また、指導者養成については、他武道も同じだと思ひますが、全ての学校に専門家を置くことは出来ませんから、体育の先生に勉強していた

「子供たちには、剣道を通して、体と心の両方を修練してほしいと思います。指導者には、安全を第一に考えていただきたいと思ひます。剣道は、大衆化して、昔のように足がらみで倒したり、突き飛ばしたりと、激しい稽古をしなくなつたこともありすが、教育として常識的に指導すれば、危険は少なく、男女差もあまり関係ありません。また、指導者養成については、他武道も同じだと思ひますが、全ての学校に専門家を置くことは出来ませんから、体育の先生に勉強していた

◎全日本空手道連盟

笹川 堯会長



「慎重正しく、礼儀正しくというのが空手道の基本です。中学校の授業では、技が上手くなるとか、試合に勝つとかではなく、教える者と習う者の師弟関係をきつちりとして、**「礼」と「節」**について、しっかりと指導していただきたいと思います。

また、空手道に限らず指導者は、

せつかく中学校で武道が必修科目になったのですから、事故を起こさないのは勿論、不祥事を起こさないことに十分留意していただきたいと思っています」

◎合気会

植芝守央理事長



「ケガのないよう実施することが一番大事なことです。普通

ケガはしません。本部でカリキュラムを作っていますので、それに則つて授業を進めていただければと思

ます。13時間程度のカリキュラム

で、合気道の良さも分かるように作成しました。合気道の稽古法は一方向ではなく、相手と互いにやりつやられつの方法で、自身を高めていきます。それを理解しながら実践することで、人の立場になって考えられる人間になると思います。

外部指導者は、道場での稽古とは違うということを認識し、目線を上

◎少林寺拳法連盟

新井庸弘会長



「まずは安全性です。授業では基本的な体の動かし方、使

いが中心になります。急所を狙って突いたり蹴ったりしますから、より安全に、どう指導するかということが課題になります。抜き技などの柔法系の技術もあります。それらを組み込んで実施すれば、十分安全に取り組めます。

指導者は、礼節、あるいは、授業中の掛け声一つでも、武道の教えや人間の生き方に繋がるように心掛け

て、武道必修化の目的をしつかり把握して指導していただければ、武道

授業の効果は十分発揮出来ると思います。特に外部指導者には、道場のように自ら望んで受けている子供たちばかりではないということを理解して、授業である以上、評価もしなければならぬので、そういう子供

たちのやる気をいかに引き出すか、学校の先生と連携して、接していただきたいと思います」

◎全日本なぎなた連盟

宮川祥子会長



「子供たちには、武道を通じて日本の伝統文化に触れ、礼に

始まり礼に終わる心、素晴らしい伝統文化を大事にする心を育てていってほしいと思います。また、武道の精神がどういうものかということを考えて実践して

いってほしいと思います。まずはそのような精神的なところの指導が大事であると思います。なぎなたを学ぶ中学生には、やはり、朝起きたときに、家族に挨拶が出来るとか、そういう基本的なことがしつかり出来

るようになってほしいと思います。

指導者たちには、授業での指導法を改めて確立したり、用具が足らなければ、対応して支援してまいりたいと思います」

◎全日本銃剣道連盟

藤原利将会長



「残念ながら、銃剣道を選択する中学校は現在ありません。一番のネックは銃剣

道というものが、まだ国民の皆様には理解されていないということです。二つ目に、戦争からの負のイメージを払拭出来ず、中学校で採用しづらいということです。三つ目は、銃剣道は発展途上の武道で、まだ学校に指導者がほとんどいないという現状です。

必修化に向けた取組は、ソフト面の検討はほとんど終わっており、いつでも対応出来る体制を整えて、満を持してまいります。また、短剣道も女子生徒の護身術に適していると思えますので、新たに短剣道ということを理解していただけるように努力してまいりたいと思います」

# 武道授業実施に万全を期す

## 武道議員連盟総会

武道議員連盟総会は、武道振興大会に先立って、3月7日午前11時30分より憲政記念館で行われた。

総会は江渡聡徳武道議員連盟理事・事務局長の司会で進行した。はじめに高村正彦武道議員連盟会長より挨拶がなされた。

続いて、オブザーバー出席の松永光日本武道館会長が挨拶に立った。

「代表的な伝統文化である武道の普及発展のために微力を尽くしたいと思います。中学校武道必修化を通して、青少年の健全育成のために大いなる役割を果たさなければいけません。武道教育が本来の目的に沿って、立派な成果が上がるように今後ともご協力をお願い申し上げます」

会計報告、承認に続き、久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長より武道振興施策の報告がなされた。「武道必修化の実施に当たっては万

全を期したいということで、予算の概要は資料(229頁)の通りです。

学習指導要領にもありますように武道は我が国固有の文化でありまして、武道の学習に積極的に取り組むことで伝統的な行動の仕方を学ぶことや武道の伝統的な考え方を理解して、相手を尊重して、練習や試合のできることを目指しております。

与野党問わず、ご心配の向きもございませう。柔道に関して、4月から万全を期す観点で、指導者、指導計画、施設設備についての再点検を行うよう要請しております。今まで柔道は選択必修で、7割強の学校がすでに行っていますので、積み重ねがあります。そのことをもっとPRするよう努めます。また、柔道の安全管理についてわかりやすい資料を作成しているところです。近日中に配布する予定でして、安全指導を徹底していきたいと考えております。



江渡聡徳武道議員連盟理事・事務局長



松永光日本武道館会長



高村正彦武道議員連盟会長



山谷えり子参議院議員



秋野公造参議院議員



久保公人文部科学省スポーツ・青少年局長



会議の様子

今後とも各学校とも安全で有意義な武道の指導を行っていきたいと考えております」

次に、日本武道協議会から全日本剣道連盟と全日本銃剣道連盟による現場の意見の発表が行われた。

まずは福本修二全日本剣道連盟専務理事より、これまで必修化に向けた全日本剣道連盟の取組の概要を説明し、「授業では心身に幅のある生徒がいることを考えなければならず、そうしたことも念頭においた剣道授業事例集を作成しました。実践の中の評価方法についても記載し、日本武道館と協力して研修会も行っております。昨年は686名の先生が参加し、そのうち70%は武道専門外の先生でありました」と述べた。

また川井武彦全日本銃剣道連盟副会長からは「必修化に向けては指導書を作成をしまいましたが、中学校現場の先生がおらず、現場の理解が得られないという現状です。銃剣道の魅力をさらにアピールしていかなければなりません。また、高校生と女性に対する普及に力を入れております。今後有為な人材の育成という観点から努力をしていきます

す」との発表があった。

質疑では秋野公造参議院議員より中学校において9武道の選択状況について質問があった。久保局長は抽出アンケート調査の結果とした上で「柔道が65%、剣道が37%、相撲が3.4%、複数行うところもございまして、トータル100%を超えております」と答弁。

また、山谷えり子参議院議員より「武道9種目のうち、ほとんどが柔道、剣道、相撲だと思いますが、学校の先生が他の6種目を指導できないことが大きいと思います。すべての種目で、テキスト、外部指導者、指導者研修など準備を整えておりますので、ぜひ9種目できることと、外部指導者の派遣準備が整っているという案内を徹底していただけたらと思います」という意見があり、久保局長は「今は3年間かけて、各設置者が準備している段階ですが、4月にその状況を踏まえ、各設置者を集め、状況を聞いた上で特色ある専門家の導入例、あるいは指導例をフイードバックしたいと考えております」と述べた。

ここで時間となり、閉会となった。

### 武道議員連盟役員名簿

- 顧問** 保利耕輔（自民）、渡部恒三（民主）
- 会長** 高村正彦（自民）
- 副会長** 大島理森（自民）、大畠章宏（民主）  
 奥村展三（民主）、河村建夫（自民）  
 鴻池祥肇（自民）、塩谷立（自民）  
 高木陽介（公明）、田中慶秋（民主）
- 理事長** 川端達夫（民主）
- 理事** 逢沢一郎（自民）、有村治子（自民）  
 糸川正晃（民主）、江田康幸（公明）  
 江渡聡徳（自民）、轟木利治（民主）  
 羽田雄一郎（民主）、平岡秀夫（民主）  
 森英介（自民）、山谷えり子（自民）
- 事務局長** 江渡聡徳（自民）  
**事務局次長** 糸川正晃（民主）



福本修二全日本剣道連盟専務理事



川井武彦全日本銃剣道連盟副会長

文部科学省資料

### 学校体育における武道の充実

中学校武道の必修化に当たり、その円滑な実施のための各種対策  
 —武道場の整備、指導内容と武道関係教材等の充実—

1. 施設対応 武道場の整備	2. 指導者対応 指導内容の充実	3. 用具対応 武道関係教材等の充実
緊急5カ年で武道場の整備促進を図る	指導者における指導力の向上を図る	中学校における武道防具等の整備を図る
(平成24年度予定額)	(平成24年度予定額)	○義務教育諸学校における新たな教材整備計画 (地方交付税措置)
○公立中学校武道場の整備 (4,534百万円)	○武道等指導推進事業 (250百万円)	・「教材整備指針」に基づく教材の整備に必要な経費を平成24年度から10年間地方財政措置(例) 柔道畳、剣道防具一式等
武道場新築：補助率 1/2	○運動部活動地域連携再構築事業 (269百万円)	
○私立中学校等武道場の整備 (70百万円)	○その他(武道講習会の開催等)	
武道場新築：補助率 1/2		

## 武道の振興について

文部科学省スポーツ・青少年局

平成 24 年 2 月 21 日

### 1. 学校における武道指導の充実

#### (1) 中学校武道の必修化に向けた条件整備

##### ① 武道場の整備

平成 24 年度から中学校で必修となる武道を円滑に実施できるよう、武道場の整備促進を図る。

・ 公立中学校武道場の整備 4 5 億 3, 4 0 0 万円

・ 私立中学校等武道場の整備 7, 3 0 0 万円

※引き続き、公立・私立中学校ともに、新築の場合の補助率を 1/3 から 1/2 に引き上げ。

##### ② 指導内容の充実

○ 武道等指導推進事業 2 億 5, 0 0 3 万円

武道等の指導の充実を図るため、地域の指導者の活用にあたって、地域の指導者の技術及び安全に関する専門的な指導力の活用方策や、派遣する競技団体等の支援体制の強化に関する実践研究を行う。

##### ○ 文部科学省等が実施する武道講習会

文部科学省が（独）教員研修センターや武道関係団体との共催により、体育担当教員や武道の部活動指導者を対象として、各地域のリーダーとなりえる教員を養成するための武道講習会を実施。

##### 【参考：都道府県教育委員会における取組】

##### ○ 都道府県教育委員会が実施する武道講習会

各都道府県教育委員会が、武道の指導経験の浅い体育担当教員を対象とした基本的技能習得のための講習会や、体育担当教員等を対象とした武道段位取得のための講習会を実施。

##### ③ 武道関係教材等の充実

「義務教育諸学校における新たな教材整備計画」として、「教材整備指針」に基づく教材の整備に必要な経費を平成 24 年度から 10 年間地方財政措置。

### 2. 武道団体への支援等

(1) (財) 日本武道館への補助 4, 2 4 1 万円

(財) 日本武道館が実施する古武道保存事業、青少年武道錬成大会、武道指導者講習会及び武道国際交流事業に対する補助。

(2) (独) 日本スポーツ振興センターによる助成（平成 23 年度配分額） 3 億 0, 0 1 6 万円

スポーツ振興基金やスポーツ振興くじ等を通じて、団体の行う選手強化活動や武道教室等の事業などに助成。

# 好評発売中



スポーツドクター **辻 秀一** 著  
 四六判・上製・248 ページ

武道やスポーツは「医療である、芸術である、コミュニケーションである、教育である」とする筆者が、指導者のために書いた良きハンドブック。ぜひ、ご一読を。



ほんとうの価値の伝え方

# 武道スポーツの真髄

## 主な目次

- 第1章 「文武両道」の人間教育
- 第2章 真剣勝負を楽しみ、人間的成長を図る
- 第3章 「セルフイメージ」という心のエネルギー
- 第4章 トップアスリートに学ぶ「社会力」
- 第5章 たかが目標、されど目標
- 第6章 「武士道書」に学ぶ
- 第7章 子どもたちの「社会力」を育てる
- 第8章 「オンリーワン」の子どもを育てる

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
 ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
 日本武道館出版広報課  
 までどうぞ！

TEL03(3216)5147  
 FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



# 日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



# BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

(翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット)

(B5判・上製・DVD付・336頁)



# 武士道に学ぶ

東京大学大学院教授

菅野 覚明 著

(四六判・上製・344頁)



# 武道の礼法

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家

小笠原清忠 著

(四六判・上製・278頁)



# マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



# 武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



# <増補版> 私も武道経験者です

月刊「武道」記者

吉野 喜信 著

(四六判・上製・326頁)



# 今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



# 大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)



# 武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)



# 武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



# 武の素描

埼玉大学教授

大保木輝雄 著

(四六判・上製・220頁)



*The 24th International Seminar of Budo Culture*

第24回国際武道文化セミナー

# 「武道の教育力」をテーマに開催

3月9～12日 日本武道館研修センター・国際武道大学





第24回国際武道文化セミナー（主催Ⅱ日本武道館、後援Ⅱ文部科学省、日本武道協議会、協力Ⅱ国際武道大学）は3月9～12日の4日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターと国際武道大学で開催され、30カ国86名の外国人修業者が参加した。

本セミナーは、在日外国人武道修業者を対象に、日本の伝統文化である武道の理論・技術はもとより、歴史などについても理解を深めることにより、武道を通しての親善と伝統文化の国際的発展に寄与することを目的に毎年開催されている。

今回は、「武道の教育力」が講義や討論会の統一テーマとして設定された。また、恒例の実技研修や体験武道も行われ、参加した外国人は、武道漬けの毎日を満喫していた。

#### ◎初日（9日）

初日の開講式では三藤芳生日本武道館理事・事務局長が主催者挨拶に立った。

「今年には武道の教育力をテーマにしまして、4日間盛りだくさんの内容になっております。セミナーを通じて、実技、理論ともに十分な研鑽を

積んで、講師の先生方との交流を深めていただきたいと思います。

また、武道は日々の技の修練を通して、能力を高め、鍛えていく人間形成の道です。今後の皆さんの武道修行が益々高まっていくことを期待申し上げます

開講式終了後、沖田行司（ウチノキ）同志社大学教授による講義「藩校・私塾の思想と教育」（要旨別掲）が行われた。その後、自らが修業する武道種目の実技研修を行った。

#### ◎2日目（10日）

生憎（あいにく）の天候であったが、国際武道大学に移動し、作道正夫、秋吉好美両専門委員による発表「私にとつての武道」（要旨別掲）が行われ、続いて、藤堂良明筑波大学大学院教授による講義「柔道における嘉納治五郎師範の教育観」（要旨別掲）が行われた。場所を日本武道館研修センターに移して、昼食後、小山正辰（まさし）大阪府立桜塚高等学校校長による講義「空手道の教育力」（要旨別掲）が行われた。

講師演武会に続いて、お待ちかねの体験武道に移った。参加者は普段



魚住孝至講師



藤堂良明講師



沖田行司講師



三藤芳生日本武道館理事・事務局長



加藤伊三男講師



秋吉好美専門委員



作道正夫専門委員



小山正辰講師

触れることのできない種目に真剣に取り組んでいた。

◎3日目(11日)

国際武道大学において、魚住孝至国際武道大学教授を座長とした全体討論会「武道の教育力」(要旨別掲)が行われた。登壇した専門委員が多かったせいか、専門委員の発表に時間が取られ、参加者からの発言は2名のみとなり、全体討論会としては寂しいものであった。

日本武道館研修センターに戻り、午後は体験武道と実技研修が行われた。夜はフェアウェル夕食会となり、参加者は互いに武道修業仲間との交流を深めた。

◎最終日(12日)

最終日は、「現代に生きる尾張貫流槍術」と題し、加藤伊三男尾張貫流槍術十三世継承者を講師として、古武道の講義・演武及び体験会が行われた。

閉講式では参加者を代表して、フアン・フォンセカさん(エクアドル)に修了証が授与された。最後に、吉川英夫日本武道館振興部長が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。



加藤伊三男講師による尾張貫流槍術体験会



全体討論会

# 藩校・私塾の思想と教育

沖田行司

## 私にとっての武道

戦後、私たちは豊かさで引き換えに、大切なものを犠牲にしてきた。他者のために働くリーダーとしての人材養成もその一つである。こうした日本人の生き方がどのように形成されてきたのか、武士の教育を手がかりに考えてみたい。

文武両道という観念は、はじめは武士を率いる頭領の理念であり、必ずしもすべての武士がそのような理念を持っていたわけではない。

江戸時代に入って領国経営を担う封建官僚としての武士という新たな役割が付け加えられ、武士の質的な変化が武士教育を必要とした。

山鹿素行は天下泰平の時代の武士の職分として、農工商の三民が社会において人間として歩むべき正しい道を、身をもって明らかにする道徳的な模範者と位置づけ、新しい文武両道の観念を生み出した。文武両道は戦国時代とは異なった意味が付与され、武士を対象とした組織的な教育形態、藩校教育が登場し、普及するようになる。

江戸時代の中期から後期にかけて創設された藩校の多くは藩政改革の一環と位置づけられる。もう一つは、庶民の統治階層である武士の綱紀の粛正である。統治者としての責任と義務を徹底することが、封建秩序を保持する上で重要な意味を持つ。

藩校のカリキュラムは基本的に儒教と武道からなっており、個人の道徳的な精進と人格の形成が何よりも優先され、庶民のリーダーとして天下に平和をもたらす主体を形成することに繋がるといっているのである。

こうした武士の道徳的な精進と人格の形成は厳しい心の「鍛錬」を通して養われた。武道は心身を鍛錬することををもって人を導くといわれるが、それはこうした武士教育の本質にもかかわるものである。

己を抑えて他者の為に働くためには強靱な精神力が必要とされる。多くの武士は、武道を通してそうした人間的な資質を鍛錬してきたからこそ、学問を実践することができたのである。

### ◎作道正夫専門委員

武道では、競技化が進む中にありながら、自己中心的な人間を育てない方法を大切にしてきている。それは寒稽古、暑中稽古である。

そこでは色々な人が一堂に会して修練をする。年齢、技術レベル、健康、身体的問題など異なる人が、自己探求、技術的な問題の向上を目指す中で交流し、導き合うことができる。

暑中稽古、寒稽古をどのように作り上げるか、長年取り組んできた。日比谷高校で人間関係・学習の向上を目指して行った寒稽古が成功した経験を基に、大阪体育大学でも寒稽古を始めた。最初は少数人数しか集まらなかったが、今は元立ちが100名弱、掛かり手が200名を越えている。

掛かり稽古の、相手を否定しながら最後には肯定するという人間同士の行き来には、本能を刺激しつつよい良い理性に向かわせるという、剣道、武道の教育特性がある。これからもこの教育特性を大事にして寒稽古を行っていききたい。

### ◎秋吉好美専門委員

昭和37年（1962）4月、京都在勤の折、住まいの近くに京都別院（当時）が所在し、通いやすさで入門した。当時はただ強くなりたいたの思いが強かった。護身術としての魅力、効果の大きい技術が面白く、練習はほとんど休みなく継続した。

東京転勤後、地元道場で指導を協力。すると今まで自信を持っていた技術が、実際には正しく理解できていなかったことに気付かされた。

創始者、宗道臣師の教え、「知っていることと、できることは別である」が身にしみて思い出された。正しく指導ができて初めて指導者としての価値がある。失敗の連続で自信喪失が続いたが、原因の追求、回復練習により状態が好転、自信回復の兆候をつかんだ。失敗の繰り返し「漸々修学」の体験と気づいた。

武道修業を通じ、常に相手を尊重する気持ち、感謝の気持ちで接する態度、他者との協調が大切であることも学ぶことができた。

## 柔道における嘉納治五郎師範の教育観 藤堂良明

嘉納治五郎は柔道を単なる勝負を争う競技と考えず、柔道を通して人間作りを大事にした。

1、嘉納は、相手の姿勢を崩して投げるといふ投げ技の原理を究明し、修行者に技の原理を説明しながら教えるようにした。柔道を通して合理的精神を養おうとしたのである。

2、乱取を行う前には、身体を怪我から守る「受身」を習得させた。乱取では、襟と袖を持ち自然体で変幻自在に攻め合うことを奨励した。こうして、身体の調和的発達と身体の健康を増し、実社会で役に立つ身体を育成しようとした。また、互いに自然体に組んで攻防し合うことで、正々堂々の精神を身に付けさせた。

3、「形」では身を守る護身術を学ぶとともに、昔の柔術の体験をして、「自国の事物を大切にする」精神を学ばせた。同時に、自分が生まれた祖国を愛する精神も大切にされた。

4、柔道は二人で戦う形態だが、相手を思いやる心が大切である。組む前に敬意を表し、終了時は感謝の礼

が大切にされた。また、「それまで」の合図がかかれば、手を止めて礼を行う克己の礼も大切にされた。

5、嘉納は、柔道で培った勇氣や克己、熟慮断行などの精神は社会に応用するように説いた。また、「柔よく剛を制す」を議論にも応用し、相手の意見を聞き入れながらも、主張はするように説いた。柔道で得た精神を社会生活に應用して立派な人間になることを強調した。

6、心身の力を最も有効に活用して目的を達成する道を柔道と定義。心身の力を「精力」、最も有効に活用することを「最善活用」とし、合わせて「精力善用」と呼んだのである。7、嘉納は、1922年に「精力善用」「自他共栄」を発表する。「自他共栄」とは、互いに助け合い、譲り合い自分と他人とが共に栄えることを望んだ。ひいては世界の平和共栄を図ることも説いたのである。

「精力善用」「自他共栄」の言葉は、宗教や道徳の根本原理を表したもので、柔道の目標といえる。

## 空手道の教育力

## 小山正辰

空手道はこれまで3度、公開されている。最初は明治期、空手道発祥の地沖縄において、富国強兵政策と皇民化政策が合致し、学校教育として公になった。2度目は嘉納治五郎に後押しされた船越義珍が大正期、日本本土に公開した。3度目は第2次大戦後の昭和期、世界へ向けて空手道が公開された。

本年開始される中学校武道必修化は、空手道にとつて、広範な人々への理解を深めるチャンスであり、第4の空手道公開の時代といつて過言ではない。学校教育としての空手道は、道具が不要、場所を選ばず、男女が共に学べるという優位性を有している。これを機に、空手道の本質と精神を伝えることで社会の共感や支持を得、その教育力を發揮していくべきである。

前述のとおり、空手が世に現れるきっかけは学校体育としてであった。糸洲安恒が伝えられた型を再現し、子どもたちが修得しやすく編み直した平安の型が最初である。糸洲

が遺した十訓には、知徳体についての教えがある。空手が青少年の心身の鍛錬に多大な効果があると認識され、学校体育に導入された。

また、船越義珍は二十訓を唱えている。「礼に始まり礼に終わる」など、現在も流布されていることを述べている。ことに「空手に先手なし」の言は空手の真髓を一言で表す名言である。我々は争うためではなく、自らを磨き、成長するために空手道の修練が最善であるとの認識を持っており、常に思念工夫せよとはまさに教育力を象徴する言葉である。

今回の必修化に向けて一番工夫したのは基本動作で、正中線に意識を集中させることを主眼にした。空手道は安全に、安全を指導できる種目なのである。中学生への指導は基本と形中心で行うこととした。

身に寸鉄を帯びない空手道は、身を守る心を養うに最適の武道である。中学生の武道入門に寄与し、心身の錬磨の端緒を伝えたい。それが空手道授業の大事な使命でもある。

## ●模範演武



弓道



相撲



柔道



少林寺拳法



銃剣道



なぎなた



空手道



合気道



剣道

### 尾張貫流槍術 加藤伊三男

最初に、尾張貫流槍術は尾張藩に伝わる技術であり、尾張藩では、剣けんは柳生新陰流やぎのうしんかげりゅう、槍やりは尾張貫流が幕末まで教授され、その他に神当流しんとうりゅうや円明流えんめいりゅうも伝えられていることなどの歴史的な説明と、流儀の特徴、槍・太刀・大太刀・薙刀・棒など、様々な武器の扱い方の説明が実演を交えて行われた。

続いて、組太刀などの「形稽古」、自由試合の「地稽古」の演武が披露され、体験会へと移った。

体験会では、槍術、刀術、薙刀術、棒術など、各グループに分かれて参加者が順次体験した。特に3・6mある貫流独特の槍には驚きつつも、皆嬉々として指導を受け、その操法を学んでいた。

最後に、加藤講師が参加者の熱心さ、技術を理解するセンスの良さを褒め、講義の感想を問うと、「すごい」といった声とともに、賞讃の拍手が送られ、惜しまれつつも約2時間にわたる講義は終了した。

## 全体討論会 武道の教育力

**(魚住)** 最初に先生方が武道の教育力というテーマで何を考えるのかを語っていただく。ご自身の体験の中で考えたことをお話しいただきたい。

**(石井)** 嘉納師範は柔道の持つ教育性に着眼され、学校体育を通じて柔道を広めた。その理念は「精力善用」「自他共栄」である。

**(射手矢)** 柔道で心身を鍛え、社会に応用し、世のため人のために貢献する。

**(井島)** 自分を制御するには相手を尊重する気持ちを持ちながら稽古をすると同時に、普段の生活でも自分を律していく。剣道と日常がバランス良く働くことが、自らの剣道を成長させ人間性を高めていく。

**(作道)** 雲弘流剣術に「剣道に勝ちなし負けなし勝負あり」とある。そこに競技の問題、お互いに研鑽しあうことの精神が内包されている。

**(窪田)** 弓道は一本の矢に誠を尽くすことであり、最高目標を真善美に求めて、人格を高めていく道である。弓道から徳育的な効果が得られる。

**(齋藤)** 心技体のうち、心が最も大切である。技術を磨き、体を大きくすることが有効だが、心の充実がなければ強くなれない。その効果が教育的だと考えられる。

**(村瀬)** 武を通して人生を考えたり、教

育力を考えるにあたって、死生観を持つことが大事だと考えている。迷ったときに判断できる人間を育てなければならぬ。

**(菅原)** 合気道は投げける方は受けの力量を判断し、レベルに応じて投げる。受けは投げのレベルに合わせて回る。お互いに感化しながら稽古を繰り返す武道である。

**(秋吉)** 元々は行動力、判断力、正義感のある若者を作るための手段が少林寺拳法であった。社会に出て役に立てる人間を作るのが目的。

**(木村)** 女子の武道として発展してきたなぎなたは、教育というよりも女性としてこうあるべきということを指導している。

**(佐藤)** 自己の抑制を覚え、人間としての生き方、在り方、相手を尊重する謙虚な心、自己抑制。これが銃剣道の教育である。

**(居合道を修業しているグレッグ)** 昔から柔道が学校教育で一つの科目になっているが、今回、その他の武道が中学校に入ることにに関して、心配となる点はどんなことか。

**(村瀬)** 時間数は短いの基本を取り入れて、技術より心の持ち方を指導するのが大事。

**(石井)** 過去20年間に中学校では39件の

死亡例があり、授業以外が37件、授業中は1件で、もう1件は不明。柔道授業が危険というメディアの視点は違う。安全指導の手引きも毎年のように改訂している。

**(作道)** 学校体育の中で追い込む場を作るのは難しい。本能を刺激するような状況を作り出せるか。

**(弓道を修業しているロン)** 武道で共通しているのは自分をどこまで追い込んで、人間として高めていくかということだが、理想のまま終わってしまう。なかなかそこまではいかない気がする。

**(魚住)** 専門委員から外国人修業者に一言メッセージを。

**(射手矢)** フランスの道場では、子どもと先生は礼をするが親はしない。日本では親と一緒にする。文化が違えば見方も違うことを研究すれば理解が深まるだろう。

**(石井)** 武道の学びの基本は、強くなる過程を通しての教育である。また他の武道と比較して考えたら面白いのではないか。

**(作道)** 武道は日本で作られ、醸成された武の文化である。世界中にあるものを作ってどうするんだというのが、武道の先生の考えであろう。

**(井島)** 技術の向上とその国の文化を理解することを車の両輪のように学ぶことが武道としての求める方向に繋がっていく。

**(窪田)** 50年前から毎日弓を引いている。この継続が自分を精神面で非常に強く

してくれるものでないかと今は思っている。

**(齋藤)** 自分を精神的、肉体的に楽しむというところからもう一步、二歩先まで追い込むということまで行くと、何か見えるものがあると思う。

**(村瀬)** 何事も巡り会いであり、人は何の役目で生まれたのかを考えなくてはいけない。自分の力以上のことをする必要はない。目の前にある役目を果たすのが大事。

**(菅原)** 日々の稽古を通じてよりよいものを求めて、それを結果的に実社会の中で味わう気持ちを持って、生きていく。そういう稽古を行っていたらいい。

**(秋吉)** 継続は力なりという言葉がある。高い山は登るのに時間もかかるが、広く世界が見える。続けることによって何かが見える。

**(木村)** 皆さんは日本の文化である武道に魅せられてここにいる。どうか一緒に支えていただきたい。

**(佐藤)** 一、十、百、千という言葉を使いたい。一回やるより十回やりなさい。十回やるより百回やりなさい。こうやっていくうちに人間としてできていくという言葉である。

**(魚住)** 武道各道の先生にお集まりいただいて意見を聞けるというのは大変有意義である。このセミナーには実技の時間がある。実技の中でも武道の教育力を感じて理解していただければと思う。

●実技研修・体験武道



- 【講義講師】 沖田行司（同志社大学教授）、藤堂良明（筑波大学大学院教授）、小山正辰（大阪府立桜塚高等学校校長）、魚住孝至（国際武道大学教授）、加藤伊三男（尾張貫流槍術十三世継承者）
- 【実技講師（専門委員・助手）】
- ▽柔道Ⅱ 射手矢岬五段、石井兼輔七段、宮腰浩一七段、越野忠則六段
  - ▽剣道Ⅱ 作道正夫範士八段、井島章教士八段、丸橋利夫教士八段、岩切公治教士七段
  - ▽弓道Ⅱ 窪田史郎範士八段、宮城孝吉教士七段
  - ▽相撲Ⅱ 齋藤一雄七段、橋本拓実三段、伏見光永三段
  - ▽空手道Ⅱ 村瀬一三生錬士七段、山口貴史五段
  - ▽合気道Ⅱ 菅原繁七段、金澤威七段
  - ▽少林寺拳法Ⅱ 秋吉好美正範士八段、杭田要正範士七段
  - ▽なぎなたⅡ 木村恭子教士、成田登代子教士
  - ▽銃剣道Ⅱ 佐藤亨範士八段、小川功教士八段
- 【通訳】 アレキサンダー・ベネット、岩田ヘレン、シヨーン・オコネル、ブルース・フラナガン

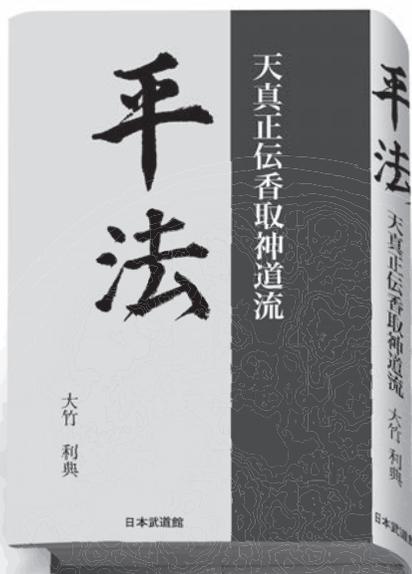
好評発売中

# 平法

天真正伝香取神道流師範  
大竹利典おおたけりすけ 著

## 天真正伝香取神道流

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。



(四六判・上製・296頁)

香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。  
さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

### 目次

序章	香取神宮御由緒
第一章	歴史篇
第一節	経津主大神の真伝、「天真正伝香取神道流」
第二章	修行篇
第一節	入門
第二節	林先生に師事
第三節	香取神道流最初の異国の門弟
第四節	流祖生誕六百年記念祭
第三章	技術篇
第一節	剣術
第二節	居合術
第三節	棒術、薙刀術、槍術、手裏剣術
第四節	柔術
第五節	忍術
第四章	軍学兵法篇
第一節	遁甲術
第二節	刀剣と密教
第五章	思想篇—全ての修行者へ—
第一節	修行者の心得
第二節	兵法は平法なり
—	平和を願う偉大なる教え



◎ご注文はインターネット [Amazon.co.jp](http://Amazon.co.jp) にて。全国の書店でもご注文いただけます。  
◎お急ぎの方は、下記お問い合わせ先にご連絡ください。送料無料で販売いたします。

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ！

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



## 日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



## BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット  
(B5判・上製・DVD付・336頁)



## 今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



## 武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



(B5判・上製・箱入・462頁)

古流武術研究家

横瀬

知行 著

# 日本の古武道

直接取材による2000枚の写真と豊富な資料で古流の全貌を紹介!

日本の古武道には長い歴史と伝統があり、流祖に始まる一子相伝の脈々たる生命の大河を貫く知恵と経験が一つの見事な体系となって現代に伝えられている。

日本武道館武道学園創立 45 周年記念 武道演武会、記念式典・祝賀会

# 更なる発展を願って 盛大に開催



合気道・総合演武



剣道・日本剣道形



空手道・一本組手



杖道・全日本剣道連盟杖道形



少林寺拳法・組演武



柔道・極の形



なぎなた・全日本なぎなたの形



全員で記念撮影



松永光日本武道館会長・武道学園長

財団法人日本武道館武道学園が平成23年度で創立45周年を迎えた。これを記念して3月11日、演武会が日本武道館大道場で、式典・祝賀会がホテルグランドパレス（東京・千代田区）で行われた。演武会には327名が、祝賀会には241名が集まり、それぞれ盛大に開催された。

剣道、空手道、合気道、少林寺拳法、なぎなた、杖道の7種目の、一般の部・少年の部の二部制で再出発し、現在に至っている。そして平成23年度、武道学園は創立45周年を迎えた。これを記念して、講師と生徒による演武会、祝賀会が開催された。



武道学園は、昭和41年（1966）4月に日本武道館内に開校し、柔道と剣道の教養科・師範科が設けられた。昭和44年には東京都の各種学校認可を取得。その後、武道学園とは別に杖道、なぎなた、少林寺拳法、合気道、空手道の各教室が順番に開設された。

記念演武会当日は好天に恵まれ、会場には演武者や元講師・元生徒が次々と集まり、午後2時30分の開会前には、演武場の周囲に設けられた観覧席はいっぱいとなった。開会に先立ち、昨年3月11日に発生した東日本大震災の被災者の冥福を祈り、来場者全員で黙祷を捧げた。黙祷が終わると、大太鼓の合図で開会。三藤芳生日本武道館理事・事務局長が開会を宣言し、国歌斉唱が行われた。

平成3年に25周年を迎えたのを機に運営について見直しがなされた。その結果、任意団体として、柔道、

次に学園長である松永光日本武道館会長が挨拶に立ち、「この日本武道館、武道学園は、当時の政財界の重鎮が日本の伝統文化である武道を復興しようと立ち上がったためまざる努力により今日まで活動してまいり

ました。生徒の皆さんには先輩方の教えにより、武道の大切さを一層体得して武道に勤しみ、自らの心身を鍛えていただきたいと思えます。本日は、元気をこめて力いっぱい思い残すことなく、観覧者に感銘を与えるような演武を披露し、盛大で有意義な内容の濃い演武会となることを期待します」と述べた。

来賓として来場した元講師の紹介がなされ、開会式は終了。その後、全員で記念撮影をし、演武に移った。演武は剣道、合気道、なぎなた、柔道、杖道、少林寺拳法、空手道の順で行われた。

剣道では、生徒による日本剣道形、試合、稽古が行われた。合気道では、少年部・一般部生徒の基本技、有段者演武、講師による総合演武が披露された。なぎなたでは、全日本なぎなたの形の演武、続いてリズムなぎなたが行われた。

柔道では、講師が極の形を演武し、次に講師と生徒が一斉に乱取を行った。杖道は、講師と生徒が全日本剣道連盟杖道形十二本を演武した。

演武は、講師と生徒が全日本剣道連盟杖道形十二本を演武した。



合気道・有段者演武



杖道・全日本剣道連盟杖道形



剣道・試合、稽古



なぎなた・リズムなぎなた



空手道・ピンアン五段



少林寺拳法・基本演練



柔道・乱取

午後5時からは、ホテルグランドパレスで記念式典・祝賀会が行われた。三藤理事・事務局長が開会を宣言し、松永会長が「演武会が極めて盛大に実施されたことをお祝い申し上げます。武道学園がこれからも一層発展するよう、日本の武道が一層

振興されるよう心から念じ、また、皆様方の今後のより一層のご活躍をご祈念申し上げます」と挨拶した。次に岩田幸彦氏（元柔道講師）が来賓祝辞として「かつて学校武道が禁止され、格技として武道が行われるようになりましたが、格技とは格闘競技のことであり、競技ということとは、約束をするということですから、そしてそれが礼に結びついていくのです。そのようなことを、学園の子どもたちに説いてきました。そんな武道に、まず親しむ、その次は武道を楽しむ、3つ目は活力を養う、その結果として心豊かになる。武道とはそのような発展を遂げていくものであると、私は指導の過程で感じました。

◆ 演武会は終了となった。

閉会式で白井日出男日本武道館理事長が「素晴らしい演武を披露いただき、ありがとうございます。これからも更なる精進に期待いたします。また、武道学園が45周年を機に更なる発展をされるように心から祈念いたします」と閉会の辞を述べ、演武会は終了となった。

◆ 演武会は終了となった。

閉会式で白井日出男日本武道館理事長が「素晴らしい演武を披露いただき、ありがとうございます。これからも更なる精進に期待いたします。また、武道学園が45周年を機に更なる発展をされるように心から祈念いたします」と閉会の辞を述べ、演武会は終了となった。

◆ 演武会は終了となった。

閉会式で白井日出男日本武道館理事長が「素晴らしい演武を披露いただき、ありがとうございます。これからも更なる精進に期待いたします。また、武道学園が45周年を機に更なる発展をされるように心から祈念いたします」と閉会の辞を述べ、演武会は終了となった。

◆ 演武会は終了となった。

閉会式で白井日出男日本武道館理事長が「素晴らしい演武を披露いただき、ありがとうございます。これからも更なる精進に期待いたします。また、武道学園が45周年を機に更なる発展をされるように心から祈念いたします」と閉会の辞を述べ、演武会は終了となった。



臼井理事長の首頭で乾杯



松田欣一郎元少林寺拳法講師



佐藤成明剣道講師



岩田幸彦元柔道講師



臼井日出男日本武道館理事長

で、ともに学び互いに高め合いながら指導できることを大変誇りに思います。武道学園の歴史の先駆けとなった先生方の教えを、直接あるいは間接的に受けて今日に至っている私たちには歴史と伝統を正しく学び、次の世代に正しく受け渡す責任があります。その仲立ちとして、役割・責任は大きいと理解しております。今日競技を中心とした武道が多くあります。勝負があるからには、勝利に向かって邁進するのは当然のことですが、かたよった勝利至上主義はいかなるものでしょうか。理にかなった正しく美しく強い技術を学び、それを修練する中で人間をつくるのが武道です。武道学園の稽古は、青少年にとっては清く正しく遅く成長する、成人にとっては生涯を通じて武道に親しみ健康で心豊かな生活を営む、そういうことを狙いとしたものでありたいと思います。私たち指導陣一同、武道精神を継承し、それに磨きをかけるということに、更に努力してまいります」。

続いて、臼井理事長が「今日の武道学園の繁栄は、創立以来ご指導いただいた指導者の先生方のご尽力の

賜<sup>たま</sup>でありました。45周年を機に更なるご指導を心からお願いを申し上げます。次第であります。日本武道館武道学園のますますの繁栄と、ご来会の皆様ますますのご多幸をご祈念申し上げます」と述べて乾杯の発声をし、出席者全員で祝杯をあげた。

出席者は種目の枠を越えて武道の稽古に励む仲間同士会話を弾ませたり、元講師や元生徒との再会を喜び、和やかに談笑した。

約1時間の歓談の後、松田欣一郎氏（元少林寺拳法講師）が「武道学園創立45周年おめでとうございませ。これも各道の先生の熱心な指導の賜と思つて、深く感謝いたします。今後ますます皆様のご健康とご多幸と武道学園のますますのご繁栄を祝して万歳三唱いたします」と挨拶をして、全員で万歳を三唱し、盛会の裡に閉会となった。



日本武道館の単行本

# 著者の80年の生涯にわたる 剣道修錬を集大成した 本格的剣道修行論

好評発売中!



(写真提供：『剣道時代』)

# 剣の清流

全日本剣道連盟相談役・剣道範士九段

堀籠

敬藏 著

(四六判・上製・344頁)

目次

- 第一章 剣道
- 第二章 剣道の歴史
- 第三章 修錬・先人に学ぶ
- 第四章 剣道の極意
- 第五章 武道における「礼」
- 第六章 剣理
- 第七章 指導者としての心構え



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ!

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158

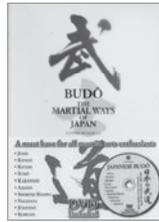
日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



# 日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



# BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット  
(B5判・上製・DVD付・336頁)



# 高め合う剣道

筑波大学名誉教授

佐藤 成明 著

(四六判・上製・564頁)



# 刀剣の 歴史と思想

筑波大学大学院准教授

酒井 利信 著

(四六判・上製・346頁)



# マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)



# 武道における 身体と心

神戸学院大学教授

前林 清和 著

(四六判・上製・370頁)



# 禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授

佐藤 錬太郎 著

(四六判・上製・386頁)



# 今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



# 人を育てる剣道

剣道範士八段

角 正武 著

(四六判・上製・268頁)



# 武道 過去・現在・未来

国際武道大学教授

田中 守 著

(四六判・上製・274頁)

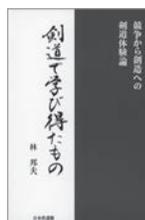


# 兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授

加藤 純一 著

(四六判・上製・344頁)



# 剣道で 学び得たもの

中京大学教授

林 邦夫 著

(四六判・上製・298頁)

# 全日本 短剣道大会

## 団体成年の部 50普連（高知）が2連覇

個人成年Aは中原泉（50普連）、  
女子は山口あや子（郡山）が優勝



団体戦成年の部決勝・先鋒戦＝  
高木（左）対三浦。高木の胴が決まる



団体戦成年の部優勝＝50普連A（高知）

第11回全日本短剣道大会は、2月18日、122団体、260人が集まり、日本武道館で開催された。  
男女とも、1試合3分三本勝負、時間内に勝負が決しない場合は判定とした。

### ■団体戦（3人制）

#### ▽成年の部

決勝には前回優勝の50普連A（高知）とALSOKA（東京）が勝ち上がった。

先鋒戦、50普連・高木対ALSOK・三浦は、高木が開始2分過ぎに胴で先制。高木は終了間際にもじつくり構え合つたところから鋭く胴を決めて二本勝ちした。中堅戦は、50普連・小川がALSOK・下元から胴を奪うと、下元も負けじとノドを取り返す。しかし、下元は竹刀を落とす反則をとられ、判定で小川が勝利した。大将戦も50普連・中原がALSOK・松浦を胴二本で降し、50普連Aが2連覇を成し遂げた。

#### ▽女子の部

決勝は由利高校A（秋田）と前回優勝の郡山（福島）の対戦。先鋒の由利高校・打矢は、郡山・山口に胴で一本勝。続く中堅も由利高校・斉藤が郡山・熊坂を判定で降し、優勝を決めた。大将戦は由利高校・高橋が郡山・軽部を胴2つで退けた。

#### ▽高校生の部

南郷高校（宮城）と横浜修悠館A（神奈川）が決勝で対戦した。結果は、

南郷高校が先鋒・中堅で勝利し、初優勝を果たした。

### ■個人戦

#### ▽成年Aの部(35歳以下)

決勝は、50普連同士の戦い。前回優勝の中原泉と三原大和の対戦となった。

三原は先輩の中原に対し、接近戦で果敢に攻めるも、中原にうまく間合を切られ、攻めあぐねる。開始1分過ぎ、中原は三原がノドを狙って



個人戦女子の部決勝＝山口(右)対小松



個人戦成年の部A決勝＝中原(右)対三原。中原の胸が決まる



個人戦優勝者＝前列左から、山口(女子)、栗原(高校生)、相野(成年C)、中原(成年A)、高木(成年B)

きたところを胴に迎え撃って先制。その後も三原から胴を奪い、二本勝。中原は個人戦全試合で一本も取られないことなく、堂々の勝利。2年連続3回目の優勝を果たした。

#### ▽成年Bの部(36～50歳)

高木郁(50普連)と坂元誠(普教連)の決勝は、高木が胴で一本勝した。

高木郁(50普連)と坂元誠(普教連)の決勝は、高木が胴で一本勝した。

▽成年Cの部(51歳以上)  
決勝戦、相野照昭(弘前)は、佐々木利朗(岩手県選抜)を胴2つで降し、優勝を果たした。

#### ▽女子の部

決勝は山口あや子(郡山)と小松美緒(山口県選抜)の対戦となった。小松は山口から胴で先制。しかし山口は落ち着いて胴を2本取り返し、初優勝を遂げた。

○優勝Ⅱ山口あや子選手(郡山)  
「優勝を狙っていました。調子もよ

く、体が動きました。後輩の育成に努めながら、来年も頑張りたいです」

▽高校生の部  
栗原匠平(鹿本商工)と野田峻佑(本間道場)が決勝で対戦し、栗原が面と胴の二本勝で優勝した。

### 【大会結果】

#### □団体戦

▽成年の部Ⅱ50普連A(高知) ②A L S O K A(東京) ③新潟県選抜A(新潟)、一戦群(北海道)

▽女子の部Ⅱ由利高校A(秋田) ②郡山(福島) ③由利高校B(秋田)、由利高校剣友会(秋田)

▽高校生の部Ⅱ①南郷高校(宮城) ②横浜修悠館A(神奈川) ③鹿本商工高校(熊本)、沼津工業高校A(静岡)

#### □個人戦

▽成年Aの部Ⅱ①中原泉(50普連) ②

三原大和(50普連) ③那珂昌弘(33普連)、岩本雄二(北熊本)

▽成年Bの部Ⅱ①高木郁(50普連) ②坂元誠(普教連) ③古家誠一(第1戦車群)、泉英晃(勝田)

▽成年Cの部Ⅱ①相野照昭(弘前) ②佐々木利朗(岩手県選抜) ③三戸智典(東金)、下机信光(久里浜)

▽女子の部Ⅱ①山口あや子(郡山) ②小松美緒(山口県選抜) ③増田直実(兵庫県選抜)、中野渡弥生(本間道場)

▽高校生の部Ⅱ①栗原匠平(鹿本商工) ②野田峻佑(本間道場) ③浦部貴也(鹿本商工)、佐々木清(南郷)



# 日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

# マンガ・武道のすすめ

## マンガ・武道のすすめ

田代しんたろう



日本武道館

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。

大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

〈目次〉

序章 武道のすすめ

松永光(日本武道館)／高村正彦(武道議員連盟)／有松育子(文部科学省)

第1章 いざ! 武道の世界へ

第2章 柔道のすすめ  
大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人

第3章 剣道のすすめ  
森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋

第4章 弓道のすすめ  
森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝

第5章 相撲のすすめ  
塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男

第6章 空手道のすすめ  
金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士

第7章 合気道のすすめ  
多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁

第8章 少林寺拳法のすすめ  
合田清一／阿達美恵子／山巻哲／松浦哲也

第9章 なぎなたのすすめ  
澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美

第10章 銃剣道のすすめ  
桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之

第11章 古武道のすすめ  
竹内藤十郎(柔術)／笹森建美(剣術)／加藤伊三男(槍術)／小笠原清忠(三馬術)

日本武道館の歴史

( B5判・236頁 )

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課  
までどうぞ!

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本 (本をクリックすると、詳細が表示されます)



### 今、なぜ武道か

—文化と伝統を問う—

福島大学教授

中村 民雄 著

(四六判・上製・370頁)



### BUDŌ:

### THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)



### 武道

### 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



### 大先輩に聞く

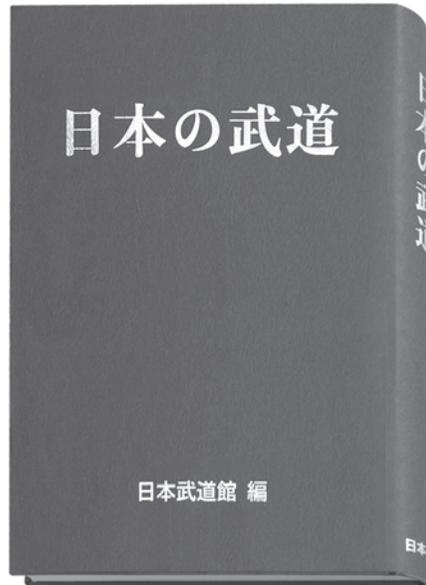
月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

一千数百年の歴史を有する  
武道の全容をこの一冊に集大成!!  
武道小百科事典としても役立つ  
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・  
少林寺拳法なびなた銃剣道をはじめ、  
各武道統括団体の全面協力によって完成!!



## 日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

# 日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書



日本武道館 編